

船舶事故調査報告書

令和5年12月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗組員負傷
発生日時	令和5年6月18日 15時30分ごろ
発生場所	神奈川県平塚市馬入橋北側（相模川） 中島四等三角点から真方位315°1,220m付近 （概位 北緯35°20.0 東経139°22.0）
事故の概要	水上オートバイPINK BLUE号は、遊走中、船長が落水して負傷した。
事故調査の経過	令和5年6月21日、主管調査官（横浜事務所）を指名原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	水上オートバイ PINK BLUE号、0.2トン 230-54673埼玉、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、特殊小型
負傷者	重傷 1人（船長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 3、視界 良好 水象：川面 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、相模川で遊走中、船長が、周囲を遊走する多くの水上オートバイと接近しないように注意を向け、約40～50km/hの速力（対地速力、以下同じ。）で航行していたところ、正面至近に引き波を認め、ハンドルを左に取ったが、引き波を乗り越えた際、船体が跳ね上がって着水した。</p> <p>船長は、本船が着水した際の衝撃で投げ出されて落水し、自力で本船に戻り、友人の水上オートバイにえい航された後、119番通報を受けて来援した救急車により病院に搬送され、右足関節脱臼骨折と診断された。</p> <p>船長は、ふだんよりも多くの水上オートバイが遊走していたので、前方の水面を見るのがおろそかになり、引き波に気付くのが遅れたと本事故後に思った。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析	本船は、ふだんよりも周囲に多くの水上オートバイが遊走している中、遊走中、船長が、他の水上オートバイと接近しないようにすることに意識を向け、約40～50km/hの速力で航行していたことから、正面の引き波に気付くのが遅れ、ハンドルを左に取ったものの、引き波により船体が跳ね上がり、着水した衝撃で船長が落水して負傷したものと考えられる。
原因	本事故は、ふだんよりも周囲に多くの水上オートバイが遊走してい

	<p>る中、本船が遊走中、船長が、他の水上オートバイと接近しないようにすることに意識を向け、約40～50km/hの速力で航行していたため、正面の引き波に気付くのが遅れ、ハンドルを左に取ったものの、引き波により船体が跳ね上がり、着水した衝撃で船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・水上オートバイの船長は、多くの水上オートバイが遊走している中、周囲の水上オートバイのみを見続けることなく、引き波にも注意すること。</li><li>・水上オートバイの船長は、他船の引き波を乗り越える際、速力を適切に調整して船体が跳ね上がらないようにすること。</li></ul>